

音楽科教育における郷土の音楽の教育的価値と指導に関する研究

—徳島県民謡「阿波よしこの」を中心に—

教科・領域教育 専攻

芸術系コース (音楽)

西岡 茜

指導教員 長島 真人

はじめに

現代社会を生きる子どもたちは、日本文化についての理解を深め、日本文化を大切にすることを育むことが求められている。音楽科教育において、日本の伝統音楽の学習では、その音楽にみられる形式的な特徴を捉え味わう学習は構想されているが、日本文化への愛着や誇りを育む学習は、十分に行われていない。したがって、日本の伝統音楽の中にみられる価値を認識し、それぞれの地方で受け継がれてきた音楽の美しさや豊かさを後世に伝えていこうとする態度を養う学習を展開する必要がある。そこで、本研究は、徳島県民謡「阿波よしこの」に着目し、ここにみられる郷土の音楽の教育的価値を明らかにし、子どもたちが、歴史的、文化的背景を踏まえながら、その価値を自分なりに探究することが可能な学習指導の在り方を検討することを目的とする。

I 郷土の音楽の本質的な特性

日本の伝統音楽には、古代中国における「礼楽思想」を基底とした「和敬静寂」の精神が根付いていることが確認できた。「和」は、お互いが譲り合うような楽曲構成になっている“音の調和”と、お互いこ心を通わせる“人の和”によってあらわれている。「敬」は、演奏者が自然と敬意を払いながら演奏しているところであらわれている。「清」は、姿勢の美しさとしてあらわれる視覚的な美と、「心をすすぐ」音にあらわれる聴覚的な美のことである。「寂」は、ゆっく

りとしたテンポの音楽にあらわれる時間的な静けさと、柔らかさやもの悲しさがあらわれている空間的な静けさのことである。

特に、日本の伝統音楽の中でも、郷土の音楽は、祭礼の中でみられることが確認された。神楽は新春を迎える直前に行われる神祭において、田楽は豊作を祈る田楽行事において、風流は華やかな衣装を纏って悪霊や怨霊を追い出す行事において演じられる。郷土の音楽は、神や祖霊に思いを届ける音楽として、そこに込められた人々の思いに注目することが大切である。

II 郷土の音楽の指導

昭和 52 年版学習指導要領に「郷土の音楽」という言葉が初めて記述され、現在に至るまで郷土の音楽の指導が重視されてきた。しかしながら、現行教科書は、様々な音楽に親しむ学習がほとんどであり、音楽に込められた人々の思いにまでふれる学習は行われていなかった。日本人としての人間性を育むためにも、日本の伝統音楽や郷土の音楽の価値を見出すことができるような指導を展開する必要がある。

III 徳島県民謡「阿波よしこの」の

文化的価値と教育的価値

「阿波よしこの」の文化的価値については、歴史的背景と音楽的特徴、音楽的特性の 3 点から検討した。歴史的背景については、阿波踊りを端緒として、踊られた人々の思いに注目すると、「先祖の供養」「生きている親類の幸福」「自身の幸福」という 3 つの願いを込めて踊られて

いたことが確認できた。これは、「阿波よしこの」を唄うことや、阿波踊りを踊ることの意味につながることから、後世に受け継いでいかなければならない特質である。

音楽的特徴については、歌詞、旋律、鳴り物の3つに分けて整理することができた。歌詞は、七七七五調 26 音を基本とし、囃子詞が繰り返されている。旋律は、メリスマと産み字という性質の異なる2つの節が用いられている。鳴り物は、「打ちもの」「弾きもの」「吹きもの」の3つの種類に分けることができたが、すべて付点ふうのリズムが用いられていた。

音楽的特性については、「阿波よしこの」にみられる「和敬清寂」のあらわれを明らかにすることができた。「和」は、それぞれの役割を果たしながら、一つのものを作り上げているところに、「敬」は、祖先の霊を迎え入れるため、敬意を払いながら演奏・演技しているところに、「清」は、踊り子の視覚的な美と、唄と鳴り物の聴覚的な美に、「寂」は、のびやかな唄の旋律にみられる時間的な静けさと、5つの和楽器で編成された鳴り物にみられる空間的な静けさにあらわれている。

「阿波よしこの」の教育的価値については、次の3つのことを見出すことができた。1つ目は、音楽のもつ立体感を味わうことができるという点である。「阿波よしこの」は、大衆性を帯びている半面、品性がある音楽であり、音楽のおもしろさに気づかせることができる音楽である。子どもたちは、この音楽に出会い、味わったことがない新しい感覚に魅力を感じることができる。2つ目は、音楽に込められた思いや生きるために築いてきた絆を感じることができるという点である。「阿波よしこの」は、単なる阿波踊りの伴奏音楽ではなく、人々の思いが詰まった音楽である。子どもたちは、音楽の価値を

探究することで、この音楽を大切にしたいという気持ちが芽生え、後世に伝えていこうとする態度を養うことにつながると考えられる。3つ目は、「和敬清寂」の精神を育むことができるという点である。「阿波よしこの」の中にみられる「和敬清寂」の精神を探究することは、子どもたちの日本文化を大切にする心を育むことにつながっていくと考えられる。

IV 徳島県民謡「阿波よしこの」の

授業構想における指導上の留意点

「阿波よしこの」の学習指導を行う上での留意点として、次の3つのことがあげられる。1つ目は、楽音構造の仕組みについてである。教師は、特徴ある旋律と鳴り物の仕組みを十分理解し、子どもたちにそれぞれの要素に注意を向かせる必要がある。2つ目は、音楽が語りかける人々の思いについてである。教師は、歴史的背景を子どもたちに正しく伝え、歌詞に込められた思いを探り、この音楽の価値に気づかせなければならぬ。3つ目は、「阿波よしこの」の中にみられる「和敬清寂」の精神のあらわれについてである。これは、日本人としての人間性を育む上で大切にしていかなければならない精神である。教師は、その音楽にみられるそれぞれの精神がどのようにあらわれているかを明確に理解し、子どもたちの心に印象づける必要がある。

おわりに

本研究を通して、郷土の音楽の本質的な特性に迫り、教材のもつ文化的価値から教育的価値を明らかにしてきた。今後の課題としては、「阿波よしこの」を教材とした学習指導案を立案し、授業の実践と検証を行う必要がある。また、これまで述べてきたことを基に、子どもたちの日本文化を大切にする心を育む教材の在り方について検討していきたい。